

# 人間の心の仕組みを探る 質的心理評価手法の開発



金沢工業大学 環境・建築学部 建築系  
土田 義郎 教授 博士(工学)

## 研究分野

環境心理学 質的評価 建築環境工学 音環境

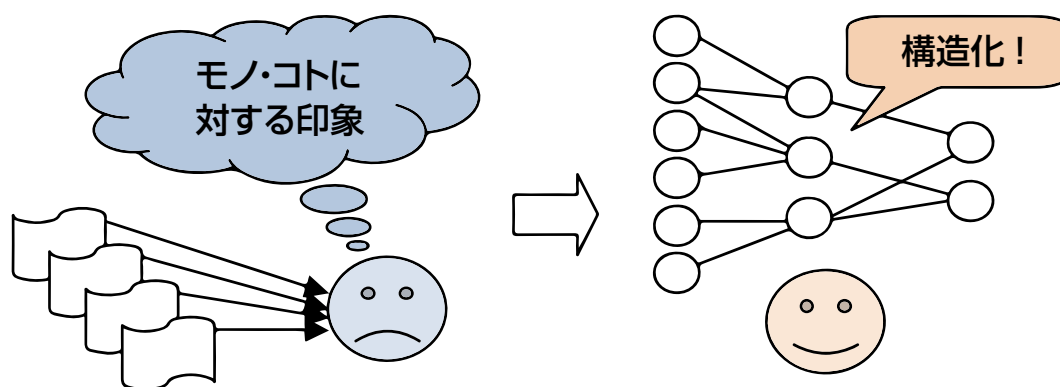
### 研究テーマの狙いとその成果

建築空間の評価は、そもそも設計目標の設定に生かすべきものである。単に人間が受ける心理的印象を定量的に把握することがしばしば行われるが、実はそれだけでは「なぜ、そのような評価になるのか」という根源的な理由が判然としない。そのためには質的な分析手法を用いて、外的状況と心理の内的評価の構造(評価構造)を明らかにする必要がある。

このような心理的分析を行う手法としては、現在までいくつかの手順が考えられている。代表的なものに「評価グリッド法」というものがある。しかし、この手法は、被験者自身に論理的に理由をたずねてゆくため、そもそも論理構造があいまいであったり、ふだん本人が意識していない潜在的な認識であったりする場合には、うまく構造が抽出できない場合がある。このような対象に対しては、「PAC分析」が有効なことが多い。

PACとはPersonal Attitude Constructの頭文字をとったもので、個人の認識の構造を指す。PAC分析では、まず自由連想を行い、そこで得られた項目間の類似度を評定し、それを用いて項目を数学的な基準によってグループを構成し、被験者と実験者が共に問題を共有しつつ関連性を推定する。非論理的な事象を対象として、現象学的立場から徐々に意識の階層構造を推定していく手法である。本研究室では、この手法を効率的に実施するための支援ツール(PC上のプログラム)を作成してきた。このソフトウェアでは項目のグループ化に対し、クラスター分析ではなく、その欠点が補える重複グループ化法を用いることができる。

PAC分析は臨床心理の分野で開発されたものであるが、その手法は教育心理や建築空間の評価へとその範囲を広げてきた。評価グリッド法と同様に、あらゆるプロダクトの創出を支援できる方法であると考えている。



## 応用分野

建材性能の心理的評価、プロダクトの開発目標の設定

## 連携を希望する企業の業種・技術

商品開発、性能評価